

CCC(ツタヤ)国の通知に反し

通知カードを本人確認に使用

通知カード

個人番号 []
氏名 []

住所 宮城県多賀城市 [] 丁目 [] 番 [] 号

昭和 [] 年 [] 月 [] 日生 性別 [] 多賀城市長 []
発行日 平成27年10月 5日

個人番号カード交付申請書
電子証明書発行申請書

多賀城市長宛
(地方公共団体情報システム機構 宛)

申請書ID []

氏名 []

住所 宮城県多賀城市 [] 丁目 [] 番 [] 号

生年月日* 昭和 [] 年 [] 月 [] 日 性別* []

【代替文字情報】

電話番号 [] 外国人住民の区分* []

在留期間等満了日の有無* [] 在留期間等満了日* []

右欄の点字表記を希望する
※最大11文字まで(漢字等は1文字)

※上に入力されている情報は、平成27年10月 5日現在のものです。
左のQRコードを読み取るとスマートフォン等から交付の申請ができます。

【編集部】多賀城市で新図書館を運営するCCCの子会社が大手レンタルショップのツタヤが、昨年10月16日以降、マイナンバーの「通知カード」を本人確認に使用していたことが明らかになりました。何が問題なのでしょうか？

何が問題か

【藤原】本人確認にも使用される「マイナンバーカード」には個人番号は裏面に記載されています。本人確認でも見られないようにするためです。ところが「通知カード」は「マイナンバーカード」との交換のためだけに造られたので、本人確認に使用することは想定されておらず、カードの表面に個人番号が記載されています(左写真参照)。そのため政府は昨年8月28日付の通知で「通知カードを本人確認書類として取り扱うことは適当でない」として

藤原益栄市議に聞きました。

【編集部】個人情報を取り扱う会社に対し、こうした政府の方針が届かなかったというのは考えられないのですが。

【藤原】まったくです。先

の国から県への通知には「本通知の趣旨について、当方においても、通知カードによる個人番号の通知の際に、通知カードを一般的な本人確認の手続きに用いることはできない旨案内するなど、広く周知・広報に努めることとしております

【編集部】昨年11月に、ツタヤの親会社であるCCCは、プライバシーバイシールド取得の放棄宣言をいたしました。

【藤原】プライバシーバイシールド取得の放棄宣言は、自らが名簿屋並みの企業であることの宣言に等しいという厳しい批判があります。CCCグループの個人情報管理に対し厳しい目が向けられることは間違いありません。

【藤原】私は12月の議会で教育長に対し「プライバシーマーク取得を放棄するような会社に図書館を任せ、かつTカードを使用するなど考えられない」と迫りました。教育長は「市とCCCでいろんな取り決めをしているので大丈夫だ」と答えました。しかしCCCは、個人情報の保護に関して国の通知も守れなかったわけですから、多賀城との取り決めは本当に守られるのか危惧しています。新図書館は3月21日オープンということになっていますが、問題が次々と発覚している以上、最低でも新図書館でのTカード使用は中止すべきだと思います。

【編集部】今日はありがとうございました。

【藤原】ありがとうございます。



第1043号
2016年2月5日

日本共産党
多賀城市議団
多賀城市留ヶ谷一丁目11番23号
代表(364)3222
FAX(309)3910

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
2月12日(金)
2月26日(金)
◇時間
午後1:30~
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤恵子議員
367-0182
090-2027-9884
戸津川はるみ議員
090-7528-2075
中田さだゆき議員
368-1338
080-1802-3524
柳原きよし前議員
368-1883
090-2605-4984

東風城月
「泣いて馬護を斬る」。
『広辞苑』(第五版)は「規律を保つためには、愛する者をも止むを得ず処分する意」と簡単に説明している▼時は魏・呉・蜀の三国時代(200~280)228年、諸葛孔明は魏の都長安の奪取をめざし連戦連勝を続けていた。魏は孔明に対処するために司馬懿(司马懿)を将軍に復帰させ、長安西方の街亭で戦うことになった▼蜀軍にとり街亭は重要な食糧補給路。孔明はこの守りを馬護に任せるとした。馬護の秀才ぶりは小さな時から知られており、孔明も才能に期待していた。孔明は馬護に道筋に陣を築き魏軍の通行を阻止するよう指示した▼ところが馬護は街亭に着くと、「兵法には高いところが有利とある」と山頂に陣を張った。馬護軍は魏軍に取り囲まれ、水も絶たれたほぼ全滅。孔明の命に背いた馬護により、蜀軍は壊滅的な敗北を喫し長安攻略は夢と消えた▼孔明は帰国後の軍法会議で馬護の責任を問った。馬護の才能を惜しみ、助命嘆願するものもあったが、孔明は泣く泣く死刑を宣告した。冒頭の言葉は以上から…。できるなら、こういう場面には出くわしたくないものだ。だが長い議員生活の中では看過できないことがあは起る。